

科目名	司法・犯罪心理学			担当教員	吉田 琢哉	
単位	2単位	講義区分	講義		ナンバリング	
期待される学修成果	子ども理解 学校と社会					
アクティブ・ラーニングの要素	ディスカッション、ディベート					
実務経験						
実務経験を生かした授業内容						
到達目標及びテーマ	本授業では、反社会的行動に関する理論とその進展を理解し、実際の事件の心理学的背景を説明できるようになることを目的とする。特に教育現場において、教師の立場から非行とどのように向き合うべきかについて、講義や議論を通して理解を深める。					
授業の概要	反社会的行動に関する理論を紹介した上で、実際の事件や事例と諸理論とのつながりについて解説する。児童・生徒の社会化を促し、反社会的行動の生起を予防するための取り組みについても紹介する。学術論文にも目を通し、理論の進展についても学ぶ。 【デジタル技術利用 該当番号：①、③、④】					

授業計画	
第1回	オリエンテーション／犯罪心理学とは
第2回	犯罪とは何か
第3回	殺人・暴力
第4回	虐待
第5回	性犯罪・ストーカー
第6回	論文講読Ⅰ～ストーカー的行為のリスク要因
第7回	家事事件・民事事件
第8回	少年非行
第9回	文献講読と発表
第10回	犯罪の原因Ⅰ～犯罪原因論
第11回	犯罪の原因Ⅱ～認知のゆがみ
第12回	論文講読Ⅱ～問題行動の抑止と向社会的行動の促進
第13回	犯罪の責任
第14回	立ち直りの支援
第15回	授業全体の総括と学習到達度の確認試験

事前学修	2	事前に配布した読解資料を精読しておくこと。
事後学修	2	小課題を課すので、講義内容を復習しながら課題に取り組むこと。
フィードバックの方法	レポートの内容について提出後の授業で解説する。授業中に振り返りシートへの記入を求め、質問があった場合には次回授業の冒頭で回答する。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	0%	実施しない
レポート	30%	授業の中で2本のレポート課題を出す。授業内容を踏まえたレポートの作成が求められる。
上記以外の試験・平常点評価	70%	授業内で課す小課題への取り組み(30%)および確認試験の点数(40%)により評価する。
補足事項	5回の欠席で成績評価は「失格」とする。生成AIの利用は認めない。	

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
教科書は使用しない。資料を 適宜配布する。	なし	なし	なし	なし
参考資料	必要に応じて適宜紹介する。			